

第4学年 道徳学習指導案

日時：平成26年10月24日(金) 第5校時

場所：4年1部教室

授業者：林 和也

児童数：男15名、女20名

1 教材名：「にぎりしめたこぶし」

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

男子、女子ともに元気で明るく、活発に活動することができる学級である。休み時間と授業時間を明確に区切ることができ、節度のある学校生活を送ることができている場面が多い。しかし、家庭での生活では節度を守れているとは言い難く、ゲームを長時間行ってしまったとか、夜遅くまでテレビを見てしまったといった話をよく聞く。また、本人はそれほど自覚がなくても、保護者から子どもが節度のない生活を送っているという話も聞くことが多い。よってこの授業を行うことを通して、節度ある生活を心がけるということを理解させたい。

(2) 本時の指導にあたって

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

主人公に共感できるよう、節度に関するアンケート結果を、ICTを使い提示し、自分たちの姿を見つめ、価値への方向付けをするようにする。場面を「ゲームのことでお母さんに怒られた陽平さんは、どんな気持ちだったでしょう。」「早く寝ると言いながら、ゲームをする陽平さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。」「こぶしを見つめ、考え続けた陽平さんはどんな気持ちだったのでしょうか。」の3つに分けたり、板書に陽平の失敗を時系列でまとめたりして、陽平の気持ちを考えさせる。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

第2場面で「正直」の価値ではなく「節度」という価値を意識させるために、「ゲーム依存症になって、身勝手な考え方しかできなくなっている陽平」の気持ちに目を向けさせるようにする。

自分の生活を見つめ、節度を守り節制しようとする心情を育てるために「こぶしを見つめて考え続けた陽平はどんな気持ちだったのだろう。」という発問をすることで価値を認識させるようにする。

3 本時のねらい

母の献身的な看病を受けて、道徳的に変化する主人公（陽平）を通して、自分の生活を見つめ、ゲームのやり過ぎてしまう主人公の心の弱さに気づき、節度を守り節制しようとする心情を育てる。

4 本時の展開

深めの発問

※ICT活用について

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時のねらいとする価値が分かる。	1. 節度に関する学級のアンケートを提示し、結果を説明する。 ・ゲームをするときの約束はありますか。 ・ゲームをし過ぎて、注意されたことはありますか。 ・ゲームをするときに気を付けていることはどんなことですか。	※大型テレビで、アンケートを提示する。 ・資料への関心を持たせると共に、価値への方向付けをする。
ふかめる	○あらすじを知り、感想をもつことができる。 ○ゲームをしたいという主人公の気持ちに共感することができる。 ○好きなことをしようと、夢中になって、節度をなくしてしまう主人公の弱さに共感することができる。 ○体調を崩し、お母さんにまで心配をかけてしまった、ことをついでを超してしまっていた自分の弱さに気付いた時の主人公の気持ちに共感させる。 ○自己の生活を振り返り、節度ある生活について考えることができる。	2 資料の範読を聞き、陽平について感想を発表する。 ・お母さんの言われた通りにするとよかったのに。 ・時間を決めてゲームをしなかったからいけない。 ・陽平がゲームをやりたい気持ちが分かります。 3 主人公の気持ちを考える。 ○ゲームのことでお母さんに怒られた陽平は、どんな気持ちだったでしょう。 ・もう少しでクリアできたのに。 ・うるさい。 ・まだやりたいのに。 ○早く寝ると言いながら、ゲームをする陽平は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・これで思う存分ゲームすることができる。 ・だますのはちょろいもんだ。 ・こんなことをしていいのかなあ。 ◎こぶしを見つめ、考え続けた陽平はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・お母さんが、一生懸命にぼくの看病をしてくれた。そんなお母さんにうそをついてしまった。うそをついてまでゲームをしてごめんなさい。 ・ゲームばかりして体調を崩して、迷惑をかけてしまった。 ・自分の好きなことばかり考えていた。 ・自分がいい加減だったからいけないんだ。 ・途中でやめておけばよかった。 ・けじめをつけた生活をしよう。 ・ゲームは時間を決めてしないと自分のからだの調子を崩してしまう。 4 自分の生活を振り返る。 ○今までの自分の生活を振り返って、今後どうしていくのか書きましよう。 ・ゲームをやりすぎて夜遅くまで起きていたことがあったけど、次の日に元気に学校で活動するために節度をもってやりたいです。	・自分は分かっているから大丈夫という陽平の気持ちに共感させたり、批判的な気持ちを引き出したりする。 ・「あーあ。あともう少しでクリアできたのに」と言う陽平の気持ちに共感させる。 ・本時は「正直」の価値ではないので、価値が「節度」へいくように進める。 ・ゲーム依存症になって、身勝手な考え方しかできなくなっている陽平の気持ちをおさえる。 ・こぶしを見つめる前に、涙をこぼれ落とした陽平の気持ちも考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">涙をこぼれ落としたとき、陽平はどんな気持ちだったのだろう。</div> ・陽平の心情の変化について考えさせ、ゲームをやり過ぎてしまい、家族にも心配をかけてしまったことを後悔する気持ちをおさえる。
まとめる	○節度ある生活をしていこうとする気持ちをもつことができる。	5 教師の説話を聞く。 ・子どもや教師の体験から、節度を守り、節制に心がけて生活することの大切さを話す。	・生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけようという気持ちをもつことができるようにする。